

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書  
(プログラム名:2012年ストックホルム国際青年科学セミナー)

2012年12月15日

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時):工学系研究科 機械工学専攻

滞在先大学:なし

卒業・修了後の就職(希望)先:①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業  
6.起業 7.その他( )

### 1. 参加プログラムの概要

世界各国から選抜された若手科学者およそ25名がセミナーやスウェーデンの伝統行事、ノーベル賞授賞式で行う一連の行事に参加し交流を図るプログラム。

### 2. 参加の動機

すべての科学者の夢であるノーベル賞授賞式へ参加できる貴重な機会であり、世界中から集められた若手研究者と交流したかったため

### 3. 参加の準備

#### ①プログラム参加の手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類審査前の倍率は不明だが、面接時の倍率は数倍。

書類審査の後に財団で面接。日本語10分英語15分程度

#### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

無し パスポートのみ

#### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

無し

#### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

財団が海外旅行保険へ加入させてくれる

#### ⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

小論文「ストックホルムで何を学びたいか」

現在行なっている研究内容

TOEIC(700以上)or TOEFL(540点以上)スコアシート

指導教員推薦状

#### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

参加者の英語力はネイティブレベル、十分な語学力を

#### ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

・英語の勉強 ・日本の歴史への知識, 他国への知識を増やす ・参加者の名前を覚える ・

#### 4. 学習・研究について

##### ①プログラムでの学習・研究の概要

ユースホステルに様々な国の学生と滞在，交流。  
ストックホルムの高校生へ自分の研究を発表

##### ②学習・研究面でのアドバイス

高校生へ説明するため要点を抑えて完結に，簡単に。  
目的を強調し 何をすればどうなるかが伝わるように発表

##### ③語学面での苦勞・アドバイス等

全員ネイティブレベルであるため会話についていくのに苦勞した。  
とりあえず自分がしゃべっている間は静かにしてくれるので，リスニング能力があれば会話はできる。  
日本の写真や自己紹介用の写真を大量に持って行くと会話が楽。

#### 5. 生活について

##### ①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

滞在するホテルは決められている

##### ②生活環境(気候、滞在先周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

寒い。お金はクレジットカードで OK だが，自由時間がなく食事もすべて出される。  
スウェーデンの大学生であるコーディネーターが助けてくれる。

##### ③危機管理関係(滞在先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良い。  
コーディネーターが助けてくれる。

##### ④参加に要した費用について(航空賃、参加費、資料代、宿泊費、食費、交通費、娯楽費などの概算)

全額サポートされる。

##### ⑤学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、休暇の過ごし方など)

プログラム中にまとまった自由時間はない

#### 6. 滞在先の環境について

##### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

スウェーデン人のコーディネーターがサポートしてくれる

##### ②滞在先の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

無線 LAN, 自販機。それ以外はコーディネーターに相談

#### 7. 参加を振り返って

##### ①プログラム参加の意義、プログラム参加を通じて成長したこと、その他所感

自分しか日本人がいない中，多数の外国人と 24 時間過ごす経験は今までなかったため，考え方が変わった。世界で戦う為には日本から一旦出て，自分の強みを確認する必要があると感じた。  
ノーベル賞受賞者は参加者の質問に対して気さくに対応してくれ，

②プログラム参加後の予定

ノーベル賞受賞者として、もう一度授賞式に参列する。

③今後プログラム参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日本のみならず、他の参加国についての知識をプログラム参加前に深める。

恥ずかしがらずにノーベル賞受賞者と交流する。プレスカンファレンスでも質問する機会があるため、失敗を恐れずに質問する。

8. その他

①準備段階やプログラム期間中に役に立ったウェブサイト・出版物

なし

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよいプログラム参加中の写真があれば添付してください。



ノーベル賞授賞式



宿泊したホテル



ルームメイトと

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書  
(プログラム名:2012年ストックホルム国際青年科学セミナー)

平成24年12月24日

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時):薬学系研究科・修士課程2年

滞在先大学: The SIYSS organizing committee (ストックホルムの4大学が毎年交代でホスト校を務める)

卒業・修了後の就職(希望)先:①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業  
6.起業 7.その他( )

### 1. 参加プログラムの概要

略称 SIYSS(シース)。世界19ヶ国から18~24歳の25名の研究者を志す学生がストックホルムに集まり、各々のセミナー発表や研究所見学などのほか、ノーベル賞授賞式をはじめとするノーベル賞関連行事への参加を通して学生同士および受賞者らと交流する。

### 2. 参加の動機

- ①ノーベル賞受賞者らと直接交流し、大きな発見をするためには何が必要なのか学ぶため。
- ②世界各国から来る優秀な若手科学者から刺激を受け、将来への大きな糧とするため。
- ③年に1回の科学の祭典とも言える「ノーベルウィーク」を純粋に楽しむため。

### 3. 参加の準備

#### ①プログラム参加の手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

学内書類審査(小論文、研究概要含む)→財団書類審査(学内審査と同一書類)→財団最終審査(面接、英語有)。  
おそらく書類審査の倍率のほうが高い。最終審査では主に研究についての面接が英語である。

#### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍であれば、ビザは不要。

#### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

まったく不要。

#### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

費用等は財団持ちで、海外旅行傷害保険に加入。

#### ⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

講義を履修していなかったため、特になし。

#### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前は日常会話+自分の専門分野の会話ができるくらい。ネイティブの人との会話は正直かなりきつかった。不安であればリスニング等で耳を鍛えたり、単語を思い出したりするべきかもしれない。

#### ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

宿泊先が船上のユースホステルのため、一般的な旅行用品のほか、シャワースリッパ、酔い止め(念のため)など。タオルはあった。寒いので手袋、マフラー、帽子は必須。ほか、名刺、紋付袴、パソコン、お土産等は日本から持参した。詳しくは財団から説明がある。

### 4. 学習・研究について

#### ①プログラムでの学習・研究の概要

主にノーベル賞関係の講義・受賞者らとの対話と、各人のセミナー発表。前者は受賞者によるレクチャーのほか、カロリンスカ研究所で講義を受ける機会もあり、あとは受賞者との懇談など。セミナー発表は各自5分ほどで現地の高校生に向けて発表し、その後ポスター会場で質問を受ける形式。

## ②学習・研究面でのアドバイス

ノーベル賞受賞者の顔と名前、研究の内容は事前に知っておくべき。セミナー発表は高校生向けなので、できるだけ平易に説明する必要がある。全体を通して、非常に幅広い研究分野に関して討論する必要があるため、専門外の部分はある程度事前知識があると楽ではあるが、分からない点は素直に尋ねる姿勢で問題ない。

## ③語学面での苦労・アドバイス等

すべての会話は英語なので、日常会話で困る事もあった。セミナーの発表原稿は事前にある程度用意しておいた。とにかく、英語が多少間違ってもめげずに積極的に話に行く姿勢が一番大事だと悟った。

## 5. 生活について

### ①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

船上のユースホステル。費用等は基本的にすべて財団持ち。4~6人部屋でありあまり広くない。共用シャワーがあるが、靴を履いていかなければならないのでシャワースリッパ等があると便利。降雪時は食事に行くにも防寒具必須。

### ②生活環境(気候、滞在先周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

日本のスキー場のような環境。この年は特に降雪が多かった。食事、移動などは現地の学生が動いてくれるが、あとは徒歩で周囲を散策する形になる。物価は高い。1~2万円ほど現地通貨に変えて、あとはクレジットカードで十分。

### ③危機管理関係(滞在先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良い。現地学生が常に一緒にいてくれるためかもしれない。医療機関にはかかっていないので不明だが、外は寒く部屋の中は乾燥するので体調管理には気を付けた。なお、基本的に室内は温かい。

### ④参加に要した費用について(航空賃、参加費、資料代、宿泊費、食費、交通費、娯楽費などの概算)

ほぼ全て財団持ち。航空費、参加費、宿泊費、食費は払ってもらえる上、名刺作成、正装のレンタル料なども補助が出たので自分で払ったものはほとんどない。酒やお土産代くらいか。

### ⑤学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、休暇の過ごし方など)

現地学生が企画してくれる夕食が何度かあり、スウェーデンの文化体験や各国の文化紹介がある。8日間という短いプログラムなので休暇はほとんどなく、何かしらのプログラムが毎日動いている。

## 6. 滞在先の環境について

### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

すべて現地学生がサポートしてくれる。語学面での不安があれば事前に伝えておくのも手。また、大使館主催のレセプションがある場合など、個々に合わせてスケジュールをコーディネートしてくれる。

### ②滞在先の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

ロビーでWiFi環境あり。食事は用意してもらえる。ビリヤード台あり。飲み物、お菓子などは宿泊先の受付でも買える。タオル、シーツ等は新しいものがもらえるが、歯ブラシなど他のものは持参する必要あり。

## 7. 参加を振り返って

### ①プログラム参加の意義、プログラム参加を通じて成長したこと、その他所感

ノーベル賞授賞式やレセプションへの出席、受賞者らとの対話、世界中から集まる優秀な若手科学者との交流など、間違いなくSIYSSでしか得られない経験ができる。8日間は正直非常に短い、反面とても濃密な時間を過ごすことができた。授賞式や晩餐会はまさに圧巻。受賞者との交流では積極的に話しに行けば(こちらが学生ということもあり)ざっくばらんな話ができ、科学者を志す自分としては総じて将来の方向性を再確認することができた。また、他国の参加者は各国の科学コンテスト等の優勝者が多く、高校卒業したばかりの人も多いがその積極性や意識の高さに非常に強く刺激を受け、語学以外にも自分に足りないものを自覚させられた。

### ②プログラム参加後の予定

帰国後、国際科学技術財団にて報告会および記者会見を行う。財団ホームページ用に各自の感想や写真を提出。年によってはさらに記者から寄稿を求められることがある(現在執筆中)。最後に、翌年の4月に行われる日本国際賞の授賞式・祝宴にも財団を通じて招待される。

### ③今後プログラム参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

枠は少ないですが、一生で二度とできないような経験ができるチャンスです。ぜひ応募してみることをお勧めします。選考ではなぜ SIYSS に行きたいか、その熱意を十分にぶつけてみて下さい。現地では短い時間を無駄にせず、とにかく積極的に行動すること、その1点だけです。

## 8. その他

### ①準備段階やプログラム期間中に役に立ったウェブサイト・出版物

<http://www.japanprize.jp/siyss.html> (財団ページ)、<http://siyss.org/index.php> (SIYSSページ)

<http://www.nobelprize.org/> (Nobel Prize)、<http://www.chem-station.com/> (化学賞など特設ページ有)

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよいプログラム参加中の写真があれば添付してください。